

会 議 録

令和6年度 第2回（仮称）藤沢市こども計画体系等検討部会

開催日時 2024年（令和6年）5月28日（火）16：00～16：57

開催場所 藤沢市役所本庁舎4階 4-1会議室（Zoom オンライン会議）

出席者 委員5名（うち、職員1名）
澁谷部会長、坂本委員、竹村委員、寶川委員、三ツ井委員
事務局4名
子育て企画課（吉原参事、天川課長補佐、中野主任、
齊藤職員）

内 容

- 1 開 会
- 2 国のこども計画に関連する検討状況について
- 3 （仮称）藤沢市こども計画骨子（案）について
- 4 閉会

○事務局（子育て企画課）

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。進行させていただきます、藤沢市子育て企画課の中野と申します。よろしくお願いたします。

それでは、ただいまから第2回（仮称）藤沢市こども計画体系等検討部会を始めさせていただきます。

さて、本日は竹村裕幸委員から途中参加とのご連絡をいただいていることと、坂本委員が本日出席と伺っていたのですが、確認中でございます。

現時点で5名中3名のご出席をいただいていることから、藤沢市子ども・子育て会議条例第8条第5項の規定に基づき、同条例第7条第2項の規定を本部会に準用いたしますと、「部会は部会の委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」との条件を満たしておりますので、本日の部会が成立

することをご報告いたします。

続きまして本日使用する資料を確認させていただきます。事前にメールでお送りしたものととなりますが、まず会議次第、資料1から資料5、事前の意見照会として送らせていただきました別紙1-1、別紙1-2の8点と、皆様にご準備いただきますよう、依頼をさせていただきました第2期藤沢市子ども・子育て支援事業計画、藤沢市子ども共育計画の2点、合計10点になります。

会議資料についてのご案内は以上となります。本日は本計画策定支援の受託事業者であります、浜銀総合研究所の担当者が参加しておりますのでご了承ください。

また、記録のため画面を録画させていただきますのでご承知おきください。

続いて会議の公開についてのご案内をいたします。本日の部会でございますが、この会議は、地方自治法の規定に基づく市の附属機関に位置づけられており、藤沢市情報公開条例第30条の規定に基づきまして、会議は公開とすることとされております。また、藤沢市審議会等の公開に関する要綱第6条の規定に基づき、会議資料につきましては原則として閲覧に供することとされておりますので、公開としたいと考えております。このことにつきましてご異議ございませんでしょうか？

〔「異議なし」の声あり〕

ありがとうございます。ご異議なしとのことですので進めさせていただきます。

また、本日傍聴者はいらっしゃいませんので、それではこの後の進行につきましては澁谷部会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○澁谷部会長

本日もよろしくお願いいたします澁谷です。そうしましたら、後から入室される方もいらっしゃるようなのですが、限られた時間ということもありますので、早速会議次第の議事の2ですね、国のこども計画に関連する検討状況についてからご説明いただいでよろしいそうですか。

○事務局（子育て企画課）

【全体感】「資料1」「資料2」

<4つのパートに分かれたイメージ>

- ・こども大綱から引き写し、こども未来戦略プランを加速化
- ・こどもまんなか実行計画に具体的な事業を追加
- ・予算や改定との連動も想定

【こどもまんなか実行計画2024】

＜子ども政策に関する重要事項＞

- ・こども大綱のトピックごとに事業を記載
- ・各事業後ろに省庁の名前が記載

【別紙1 工程表】

＜加速化プランや重要施策の工程記載＞

- ・新規拡充施策を中心に
- ・現状を把握し、工程を示す

【別紙2 指標】

＜各個別事業の評価指標＞

- ・事業の実施件数などのアウトプット指標を載せている
- ・指標とアウトカム指標との繋がりや議論が課題
- ・こどもまんなか実行計画の策定に活用される予定

【今後の策定と公表】

＜基本政策部会のゲート修正や審議会の意見を踏まえ＞

- ・こどもまんなか実行計画が策定され、公表される
- ・指標や進捗管理については今後議論される

【補足】

＜資料2の各事業の紹介について＞

- ・各省庁の事業に加え、該当しない事業も紹介の対象となる

○澁谷部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか、国の動向についてなのですが、何か今のご説明について何かご質問であるとか、ございますかね。

よろしいでしょうか。これはこのような状況になっているということで、しばらく国の議論も見ながら、藤沢市は藤沢市でしっかり実施した調査計画調査に基づいて、5年1期でしっかり計画を作っていくということになるかと思えますので、無視はできないのですが、今ご説明いただいたようなところを踏まえて施策を作っていくということでよろしいですかね。

大丈夫ですか。坂本委員、竹村委員、先に進めさせていただいておりまして、今、国の動向の話が終わったところでございます。もしよろしければ先に話を進めて、またご意見いただければいいかなと思っておりますので承知ください。

そうしましたら議事の3、藤沢市こども計画骨子（案）について話題を移し

ていただいて、事務局からご説明いただけますか。

○事務局（子育て企画課）「資料3」

【こども計画骨子案】

＜子ども共育計画と子ども・子育て支援事業計画の概要＞

- ・各指標調査結果をまとめて計画に反映
- ・基礎調査の結果も踏まえて5年1期の計画を立案

＜実態把握の方法 - 統計データ＞

- ・人口動態や核家族世帯の割合などのデータを載せる
- ・必要なグラフやデータを第2章の計画骨子に反映

＜実態把握の方法 - 実施調査＞

- ・実施調査の概要を載せる
- ・前回の報告事項や統計データを参考にする

＜子ども若者と子育て家庭の状況＞

- ・生活困難を抱える子育て家庭の概要を載せる
- ・児童扶養手当や虐待の相談件数などのデータを載せる

【ライフステージ別の概況】

- ・子どもの3つの期間について分けてデータを載せる
- ・未婚率や出生数合計特殊出生率などのデータを載せる

＜学童期思春期の内容＞

- ・実態調査に関連した内容を引き継ぐ形で考えられている

＜青年期の内容＞

- ・高等教育の進学率や就業率、自殺の関係などに関するデータを追加調査として載せる予定

【子育て家庭の状況】

- ・実態調査を基に結婚や暮らしの状況、結婚相手などを載せる予定

【子どものウェルビーイングに関する状況】

- ・子どもの居場所や生活満足度に関するデータを載せ、こども大綱にも基づく予定

【子どもの意見】

- ・悩んでいる子どものために必要な要素や子どもの意見を調査データとして載せる予定

【保護者や支援者の意見】

- ・政策的な支援や団体の意見なども追加する必要があると悩んでいる

○澁谷部会長

少し時間を作りましょうか。要はこの現状ですね、計画を立てる上でのデータがしっかり特徴的なところを踏まえて載せられているかどうかというのは、ご意見いただいてから枠組みに移った方がいいかと思imasるので、一旦ご意見いただきましょうか？

では、今ご説明いただいた通り、様々な膨大な調査を踏まえて、計画を立てる上でこのような項目をまず報告書の2章部分でしょうか。実態のところでしたら、しっかり掲載すると、それに基づいて計画ができていくので報告書の立て付けとして、計画の立て付けとしては非常に大事なのですが、今事務局からもご提案がありました通り、この中に必要な項目が掲載されているかどうかや、何かその他ご質問やご意見があれば、まずここでいただいてまいりたいと思います。

事前のアンケートでは特にこの点についてご意見はいただいてないのですが、今改めてご覧いただきまして、何かご質問やご意見ございましたら、いただければありがたいのですがいかがでしょうか？

○竹村委員

前回の部会に出ていなくて、会議録が未完成なものも含めて資料もあわせて見せていただいたのですが、今いろいろ概況ですとか、状況ですとかをデータ的に出して、それに基づいて計画を立てていくという説明でよろしいでしょうか。

これで今の資料3の第2章の1の丸の2つ目に、基礎調査の実施概要というので、ヒアリング調査とかですね、そういったのが入ってしまっていて、なんですかね、概況とか状況というのは、客観的に今こういう状況に置かれている方たちがこのぐらいいるというデータで、ピンとこないのはそこからどういうふうな計画立てに結びついていくのかなというのはわからないです。

どちらかというヒアリング調査ですとか、2ページのところにある青年期のところの結婚に関する意識と、子どもを持つことに関する意識とこういった何て言うのですかね、考え方とか、今こういうことで困っているなどということがないとなかなか計画立てに結びつかないのではないかなと思うのですが、その整理はすみません、全部目を通し切れていないのでわからないのですが、そういう仕立てになっているという理解でよろしいでしょうか。概況とか状況だけからはなかなか、改善するかしらないかという、議論や結果にはなっていくと思いますが、そこからそんなに藤沢市がこれからやらなければいけない内容が導き出されるのかがよく理解できないので、そこだけすみません。さか

のぼってしまうかもしれませんが、教えていただければと思います。

○澁谷部会長

そこは前回議論してないところだと思いますので、この中で要は、特に読み手としては課題ですよ。どんなところに課題があるのかなというところにフォーカスをしていくので、そのあたりがしっかり見える形になっているのかというところを含んだご質問かと思いますが、事務局で少しお考えがあればお聞かせいただけますか。

○事務局（子育て企画課）

ご質問ありがとうございます。人口動態であるとか少子化の状況だとかというところは、正直こども大綱が少子化対策といったところも踏まえたものという形になっておりますので、そういった現状の藤沢市、全国的な部分もありますけれども、そういった実態を踏まえたところでの解決というか解消に向けた動きの一方で、少子化対策自体はやったとしても多分それを完全に止めるという方向には多分至らないとは思いますが、それに対しての支援、そういったところをやっていかなければいけないよ、というのがございますので、その部分に対してのデータだとかは載せさせていただくような形でとらえております。

また子どもの部分で核家族とか労働力の部分というのが、実際共働きだとかに関しましては、保育の需要であるとか、また子どもの居場所や子育てに対する家族とのあり方がトピックになりますので、そういったところを描くというデータとして調査としては必要になるのかなというふうに考えております。

また、困難を抱えやすい子育て家庭といったところに関しまして、従前の共育計画がいわゆる貧困対策をベースに導きをしていましたので、そういったところのデータとしては出させていただくという形で、事業ありきで先にあるようなのはありますけれども、実際にはそういったところの支援というのは子ども青少年部としてもやっていかなければいけない支援ですので、そこは継続して載せていくような形になるのかなと。

一方で全てというか、こども大綱でもその貧困対策というところのベースというのがやはりありますし、今回の計画、こども大綱も勘案して市の計画を立てますよという形になっておりますので、そういったところを踏まえた形でデータは出させていただくという整理をさせていただいているというところですよ。

○竹村委員

いいですか。

○澁谷部会長

はい、お願いします

○竹村委員

データそのものは必要だと思いますし、載せるべきだと思うのですが、先程澁谷先生からまとめていただいたかと思うのですが、要するに計画のネタとなるようなものがちゃんとここにデータとしてというか、計画のもととなるこういう課題がありますと、その把握ができるようなデータになっているのですかということだけなんです。

○事務局（子育て企画課）

データの結果として今出ているデータがというような形になりますかね。

○竹村委員

結果というか何ですかね、言葉が上手ではないのですが、今説明していただいたほとんどが、今こういう状況です、というデータのように聞こえるんですよ。これがその状況は分かりました。だからこの状況を改善するためにこれをやりますというのが出てくるわけですね。

そういううまく繋がるのでしょうか。繋がるのであればいいのですが、要するにヒアリング調査とか生の声みたいな、私達はこういうことで本当に困っています。この今困っていますと言った人は、概況とか状況の調査で言えば、何%の人の中に入っているのかもわかんないけど、それだけで藤沢市がこれからやろうとする、2つの計画をまとめて1つにしつつも、子どもを大切にしっかりと育てていきましょうねという計画に繋がるデータになっているのでしょうかと、そこだけは確認を。それだけという言い方はおかしいですが、そういうデータの提供の仕方になっていて、そこから導き出されたものが、計画となっていくんですよとだけ聞きたいです。そこは大丈夫ですかねということなんです。

○事務局（子育て企画課）

データの提供元というか、こちらのデータの把握に基づいて政策の実施という形になりますので、ご指摘いただいている部分に関しましてはその理解でさせていただきますという形です。

○竹村委員

多分私の言っていることが伝わっていないと思うのですが、このデータから、本当に計画生み出せますか、ということなんです。このデータとこのデータからすると藤沢市はこういう子どもの政策をしていかなければならない。だから

らこの率はこういうふうに下がるというふうには、そういうふうには1つ1つ繋がりますかということを知りたいんです。

だからこれ逆に言うと、もう既に計画ありきみたいなものが見えていて、その裏付けを取るためのデータだとすると、これから計画を立てようとするものとまた、本当にちゃんとした計画が立っていきますかということを知りたい。本当に困っている世帯とか困っている子どもたちが、何に手を差し伸べていただきたいかというのが本当にこの中に新しいものとして出てきて、それはちゃんと計画に提供されているというふうになっているんですよと、なっていますかということと両方ご質問なんですけど、これ裏取りみたいなデータじゃないでしょうか。既に計画があって、それ常にある計画で裏取っていてこれを改善させるためにその計画をまた同じようにやるというなら、同じことをやっていけばいいだけなんじゃないですかねという気もするので、そこは大丈夫ですよ。だからヒアリングで新たに掘り起こされたものもちゃんとその計画として、大綱とすり合わせは必要だと思うのですが、藤沢なりの計画ができていきますかということだけお伺いしたい。

○澁谷部会長

事務局は三ツ井さんから、どちらがいきますか。

○三ツ井委員

聞こえているでしょうか？すみません、同じ部屋でハウリングを防ぐためにいろいろ変更しているようなので、もし聞こえなかったら何かサインを送っていただくと助かります。

よろしいですか。今の点、ご心配いただけるのは本当にごもつともだと思っています。むしろ国が示すようなものがあるって、それありきで体系や結果や施策を国に準じて導き出そうとするために、ある程度恣意的にアンケート項目、あるいはアンケートの結果で出るものを導き出してここに並べていくのでは、多分藤沢らしさを出す意味がない、というところもおそらく懸念されてのご意見なのかなというふうに思いました。それで今、事務局が用意をしてくれている物というのは、一般的な統計数値のところと、今回アンケート調査もヒアリング調査も、こちらからの結論ありきではなく、無作為に抽出したものの中からご意見を伺ったものを挙げています。その中で、例えばこの中で言う(2)の(イ)学童期思春期ですとか、それぞれのところに子どもの素直な意見という意味で、学校の授業がわからない部分があるか、ですとか学校に行きたくないと思ったこととか。次のページでいくと、(ウ)の青年期のところだと、結

婚や子どもへの意識、この辺りはこれから調査をするところなので、どんな結果が出てくるのかまだわからないところもありますし、(3)の子育て家庭の状況というのも、主観的な意見を伺ったものになっています。これらが今回特にウェルビーイング、生活に満足をしているかと思っているかということによって、調査ができていますので、満足できていないとすればどんなことがきっかけになって満足がいかなかったのだろうかとか、そういった分析は可能だと思っていますし、こういったことの中から何を藤沢市として取り上げてやっていく必要があるのかということ掘り下げていくことで、計画の内容にしていく、あるいはそれにぶら下げる具体的な取り組みを施策にしていくということができないのではないかと考えています。

ただ、このあたりが特徴的に現れるのではないのかと思われる項目を、事務局は多分ピックアップしていると思うので、実際には皆様に膨大なページ数のアンケート結果をお送りしてしまっていると思うのですが、あちらの方の本編の中から、本当は必要なものが何なのかというのを選ぶべきなのだと思いますが、事務局の中でこの辺が特徴的なものを拾い出す、あるいは一定程度国の示すことも大綱にふさわしい内容になるのではないかとと思われるポイントについて、藤沢市の状況を把握する上で必要なデータとなるのではないかと。保護者や子どもの実感、主観を表しているものになるのではないかと。今提示をさせていただいているので、もしかしたらこういった点ではどうでしょうかというものが他の委員の皆さんからはかもしれないと思う中で、今提示させていただいている状況にあるのかなと思っています。私からは以上です。

○澁谷部会長

よろしいですか。多分趣旨は今に伝わったかなと思いますので。私も多分パワーポイントの資料5で作っていただいたように、多分最後この調査結果からわかる施策の方向性みたいなもの、こういうものが必要なんじゃないかなというまとめのページがパワーポイントには載っているのですが、多分そうしたものがあると、特に一般の方たちは細かいデータはあんまり見ないかと思っていますので、それを踏まえたときにやっぱりこういうところに課題があるんだなというのが見える形になるかと思っていますので、そのあたりは今後資料作りの中で実態があって、その実態の背景にある課題としてこういうものがヒアリング調査を含めたときに見えてきて、その見えてきたものをきちんと第3章以降の施策の柱の中で拾い上げていくというような構図が見えればよろしいかと思っていますの

で、その辺りの見せ方ご留意いただければと思います。

寶川委員や坂本委員も今の時点で何かございますかね、実態のまず2章のところ、特段このまま進めてよろしいですかね。

では私もとりあえずは非常に特徴的な経過が出ていますので、どこまでクロス集計で見せるかとか、そのあたりはやっぱり作って見ないとわからない部分もありますので、私の方もこれを原案にして進めていただく、そのときに藤沢市の課題がどこにあるのかというところを見えるような形でご説明いただくということで、バージョンアップしたものをまた見ていきたいと思います。

では宿題が出てきたような形になりますが、事務局の方、この資料3につきましてはよろしく願いいたします。

では残り20分ぐらいで説明とご意見を伺っていきたいのですがもう1つの柱立てに関わる資料につきまして、事務局よりご説明いただいでよろしいですか。

○事務局（子育て企画課）「資料4」

【資料4についての説明】

<資料4の内容確認>

- ・「藤沢市こども計画の目指す将来像」についての検討案を提示している
- ・「こども大綱」との統合も考慮して作り直している

【資料4の詳細】

<D列以降の計画内容>

- ・DF：こども大綱と現行計画の将来像や視点が描かれている
- ・子ども・若者の意見表明に関する部分は「こども大綱」をベースに作成している

- ・子どもの権利を主体とした視点に基づいて意見を聞きながら制作を進める
- ・C案では「こども大綱」と市計画の視点を組み合わせている

【意見や感想の要望】

- ・個々のC案に対する意見や感想をお待ちしている
- ・他の自治体の取り組み状況も参考になる
- ・藤沢市の取り組みは早く、積極的な感じがする
- ・予算に関しては国の出方を待っているという状況

【資料4の姿勢についての感想】

<参考資料の姿勢の1つ>

- ・こども大綱や支援事業計画には権利の重要性が示されている

・市としても権利を大切に理解し取り組んでいくべき

○澁谷部会長

ありがとうございます。また文言のところは、多分本委員会の方でも市民の方たちのいろんな思いが反映されてくるかと思うので、あくまでもここは案作りというところになるかと思えます。事務局でも全く恣意的な案を作るわけにいかないの、きちんと理屈立てをしながら作っていただいているところですが、厳しい部分もあろうかと思えますので、委員お一人お一人からこれでいいというお墨付きも含めて、何かもしご質問ご意見あればこの場でいただければ、早い段階で必要な修正や追加資料の検討もできますので、ぜひ本件につきましては感想で構いませんので、お一人ずつご意見いただければありがたいのですが、いかがでしょうか？指名していいですかね。

寶川委員は他自治体の状況など、他の自治体でもうこの段階まで進んでいるところはちなみにありますか。

○寶川委員

はい、寶川です。実は私が関係している自治体では藤沢市が1番取り組みが早く、個人的にはよくここまで作ったなという、すごいなという感想が1番初めに来ております。他の自治体はまだ国の出方を待つとか、やはりどのように解釈していいか戸惑っているところが多いのかなと感じておりますので、ここまでよく形にしたいなというのを、藤沢はすごいなと思っております。

せっかくなのでこの資料4につきまして、1点だけですね。感想なのですが、この資料4の参考資料の視点の1でしょうか。藤沢市こども計画検討たき台の視点の1ですね。こちらこども大綱にしても、現行の支援事業計画にしても、共育計画にしても、権利のところはどこにも書いてあるんですね。ですから、今後もここはぜひ市としても大切にしてお取り組みいただけると嬉しいなと思って見ておりました。よろしく願いいたします。

○澁谷部会長

ありがとうございます。

ではご意見ということですので、また次に進めて、もし事務局が最後に何かコメントがあればお願いいたします。

坂本委員、次よろしゅうございますか。何かご感想でも結構ですので、気づいた点があれば何かお願いいたします。

○坂本委員

坂本です。そうですね、本当によくここまで整理されてらっしゃるなと思い

ながら拝見しておりました。視点の1から6についても、概ねこのとおりでよろしいのではないのかなと感じておりますけれども、どうしてもこの計画の目指す将来像のところの案が、どれもすごく説明っぽいというような感じがしておりまして、大綱が目指している社会自体がかなりアバウトな説明なので、これをどう落とし込むかというところが結構難しいのだらうなと感じておりますが、何かどれもこのダッシュではなくて何でしたか、かぎ括弧で表題があって、それに説明文が付くというところの説明がかなり盛りだくさんにいろいろと書いてらっしゃる感じで、特に案3のウェルビーイングが出てくると、一般の方がここまでわかるのかなというところが、すみません本当に純粋な感想なのですが、そういうところが1保護者の面としてはですね、ここまでやっぱり市民のママ友がいないのではないかという気がしてですね、何とかもう少し短くできたらなというふうな感じはいたしました。以上ざっとの感想で申し訳ございません。

○澁谷部会長

ありがとうございます。そしたら、竹村委員いかがでしょう。何かご感想でも結構です。

○竹村委員

自分はこの会議に参加させていただいて、本当に子どもは次代の藤沢も担いますし、日本を担うという形からすると、本当に大切にしていかななくてはいけないという思いの中で、貧困といいますか、そういったものの格差で子どもたちがしっかりとした教育を受けられなかったり、そういったことのないようなことをしていただきたいなという思いが強いです。なので、計画の目指す将来像のところは、今坂本さんでしたでしょうか、が言われたので近い感想もありますが、これはこちらを先に掲げられるだけ今いろんなことが考えられているのか、それとも計画立てからにじみ出てきたらこんな将来像になってきたみたいになるのか、というのは分からないので、意見は言えないのですが、視点のところでは視点の4の貧困の格差については、ぜひこういった観点や視点を持ってやっていただきたいなと思うのと、この中に教育とかですね、基本となる教育みたいなことも、まだもっと細かく計画を砕いていかないと出てこないものなのか、1番大事なような気もするのでそういった視点というのはこの時点で入ってこないのかというのは感じました。

ということからすると、あと結構綺麗に書いているというか、グロテスクなですね、本当にグロテスクなことが丁寧にあって、だからそこをどういう視点

で捉えて解消していくのかということについても、視点のところでもう少し、教育のところもそうですけどそんなような内容のものが入ってきてもいいのかなというのが感想です。

○澁谷部会長

ありがとうございます。そうしましたら三ツ井委員、委員の立場で何かございますか。

○三ツ井委員

委員の立場でということで、2つ3つほど視点のところでは気になっていることがあります。1つは子ども若者と子育て当事者、あるいは子育て中の人という言葉のバランスをどう考えるのか。あるいは、その施策や視点のバランスをどう考えているということが1つと、あとに2点目は具体的な中身になってしまえますけど、先ほどあった竹村委員からお話いただいた、貧困と格差はすごく重要なポイントなのですが、実際に貧困と格差そのものの解消について自治体ができることは、実は少ないと思っています。これを藤沢として、どのようにこの子ども・子育ての中で、取り組みとして進めていこうとすることができるのか、というのは1つ課題だなと思っています。

3つ目が、視点5の前会の会議で少し話題になった、結婚や子育ての希望というところについて、ご意見いただいた中でその多様な価値観だとか考え方というのは、これからどうやってこの中に入れていく、藤沢らしさというか、多様性を受け止めるという観点で、この中にどのように表現した方がいいのか、それともこの中では表現しない方がいいのかという点については少し気になっているところです。

あとすいません、もう1点だけ。全体を通してなのですが、前回の計画の中では共育計画というのが1つ別の、藤沢としては共育計画の貧困対策の部分だけを別の計画にして重視してきた部分というのもあったと思っているので、これが完全に視点6の中に入ってしまいう形がいいのか、それともある程度計画の目指す将来像などの、少し上位のところはこのフレーズということなのか、この概要ということなのかは別として、この共育という考え方、あるいは言葉へのこの会議の場での思い入れというのでしょうか、それが私も昨年度から参加する中でまだわからないというところなので、その言葉の大事に仕方みたいところは気になっています。

以上です。

○澁谷部会長

時間の関係もありますが、事務局で今教育の視点をどうするか、あと文言の長さであるとか、視点についていくつかご意見をいただいたところなのですが、どうでしょうか何か今の時点で何かコメントがあるか、あるいは次回にまた何か持ってくる根拠付けとかがあるか、何かコメントがあれば最初にいただきたいと思います。

○事務局（子育て企画課）

ざっくりばらんに申し上げますと、教育の部分は正直宿題だと思っています。実は今教育振興基本計画も改定のタイミングというところがあって、おそらく本当の理想で言えば、それもしっかりとするというのが本当の理想だとは思っているのですが、教育委員会との関係とすみ分けの部分と、そこを逆に連携して共同してどういった形で理想的なあり方に持っていけるのか。一方で不登校であるとか、そういった問題というのが今回のご意見で、親御さん保護者さんの意見としても出てきているし、子ども本人の意見としてもやはり大きい課題として出てきているところでもありますので、その部分どういった形で対応していくのかというところが課題だなどは思っています。今結論が出せない状況なのですが、委員おっしゃっている通り、教育の部分はすごく大事な視点だとは思っていますし、その事業としては確実に連携、その教育振興基本計画との連携の中であったとしても、それが入ってくるような立て付けというのが絶対必要なのだろうなどは思っているのですが、連携の仕方が行政的にも課題があるところなので、はい重い宿題というところで受け止めさせていただいているところです。

○澁谷部会長

ありがとうございます。そうしましたらまた次回に向けていくつか課題が出てまいりましたので、その提案の整理をお願いします。私も前回1章の話をしたのですが、教育計画やその他の計画との関係性というのはどうしてもごちゃごちゃしがちなので、上位計画含めて、こども計画がどういう位置づけなのかというのは、また繰り返し整理をさせていただきたいというところと、あとは私も他の計画に携わってきて、キャッチフレーズみたいなものはどこも同じようなものがあるのですが、やはり多分委員会に出したときに藤沢らしさというのはやっぱり出てくるかと思っておりますので、先ほどキーワードとして出てきた共育を引き継ぐ形で、もう少し前面に出すのかどうかというのがもう一揉みしてもいいのかなと思っています。

最終的に市民の方の思いをぜひ反映していただければと思いますが、多分そ

のあたりのところは今後議論になるのかなというところは、本委員会を見据えて感じているところでございます。

では、今日は1時間限りということですので、いろいろお気づきの点を出していただいて、また事務局で必要なことがあればまた委員に個別にお問い合わせいただくなどして、次回に向けて進めていただければと思います。

では駆け足になりますが私からは以上ということで最後事務局に事務連絡でお渡ししたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局（子育て企画課）

本日はお忙しい中、（仮称）藤沢市こども計画体系等検討部会にご出席いただきありがとうございます。本日の資料も含めまして、計画策定に関する内容等でお気づきの点がございましたら、メール等で構いませんのでご意見いただけますと幸いです。

なお、次回の部会開催日程につきましては、6月の下旬頃を予定しております。後日ご予約をお伺いいたしますので、その際にご対応のほど、よろしく願いいたします。以上です。

○澁谷部会長

ありがとうございました。本日の日程は全て終了いたしました。本日は速やかな進行へのご協力、大変ありがとうございました。

では以上で閉会といたします。